

知っておきたい！女性医学のトピック 14

2025年11月1日(土)・2日(日)の2日間、江東区東陽のホテルイースト 21 東京において、第40回日本女性医学学会学術集会を主催させていただいた。この分野に長くかかわってきたものとして、「女性医学とは何ぞや」という問いが常に頭の中にある。前身の日本更年期医学会が2011年に日本女性医学学会に改称した際に、取り扱う課題は「更年期・老年期」から「更年期を中心とした」「女性のライフステージ」全般に拡張された。産婦人科学におけるその他の分野、すなわち「生殖」「周産期」「婦人科腫瘍」が専門領域をより高度に収束させていく一方で、第4のサブスペシャリティである「女性医学」はそこから取り残された多様な領域を受容・包摂し、産婦人科領域における「generalist という名の specialist」を育成する専門領域として発散していくことを期待されているのではないだろうか。そのような観点から、学術集会のテーマを「Diversity, Equity, and Inclusion—すべてを包む女性医学—」とした。女性医学はほかの専門領域以上に多様(diverse)であり、公平(equitable)であり、包括的(inclusive)であることが要請されているはずだ、という思いを込めたものである。

学術集会では特別講演、海外招請講演、教育講演、シンポジウム、特別企画、学会指定プログラム、専門医共通講習、産業医講習、日本産婦人科医会共催企画、日本肥満学会共催企画など実にもりだくさんのプログラムを組むことができ、その多くについては学会の公式誌である「日本女性医学学会雑誌」に要旨が掲載される予定である。ただ、いつも残念に感じていたのが、学術集会でとても興味深く拝聴した共催セミナーについては、その内容を記録で再確認する機会が少ない、ということである。

『産科と婦人科』の女性医学分野の編集を担当した5年間の最後の企画となる今回、そのような思いからわがまを申し上げ、自分の主催した学術集会を車の両輪として盛り上げていただいた20件の共催セミナーのなかから一部を取り上げ、講演要旨を総説としてまとめていただいた。学会誌とは一味違うもう一つの「女性医学の最前線！」を感じていただければ幸いである。

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座 寺内公一)